

グラフ・資料統合 No.1(朝ごはんアンケート)

L1 標準

Class _____ No. _____ Name _____

レベル:L1(都立共通・神奈川の共通問題レベル)	目標時間:18分	満点:100点(自己採点)
--------------------------	----------	---------------

次の英文は、中学生のリク(Riku)が保健委員会で発表したスピーチの原稿です。[表]とあわせて読んで、あとの各問に答えなさい。表の(X)に入る数は、本文から考えます。(A)～(D)は問3で使う印です。

- ① Do you eat breakfast every morning? Last month, our health committee asked this question to the thirty-five students in our class. Today, I want to share the results and think about our mornings together.
- ② Here are the results. Twenty-one students eat breakfast every day. Only five students eat breakfast rarely or never. I was glad to find that most of us start the day with some food. But when I looked at the answers more carefully, I found something interesting: almost all of the students who answered “rarely” or “never” said the same thing — “I have no time in the morning.” **A**

[表]朝ごはんアンケートの結果(1組・35人)

毎日食べる	ときどき食べる	あまり食べない	食べない
21人	(X)人	3人	2人

- ③ Why is breakfast so important? Our brain uses a lot of energy, and in the morning, the energy from dinner is almost gone. Breakfast is like(①)for the brain. In fact, some studies show that students who eat breakfast can concentrate better in morning classes. When I skip breakfast, I often feel sleepy in the first class — maybe you have felt this, too. **B**

- ④ Then, how can we make time for breakfast? The answer is simple but not easy: we have to change our nights, not our mornings. If you go to bed thirty minutes earlier, you can get up thirty minutes earlier. **C** Also, breakfast does not have to be big. A banana and a glass of milk are much better than nothing.

- ⑤ Our committee will make a poster about easy and quick breakfast ideas and put it in each classroom next week. **D** Breakfast is a small thing, but it is the first step of the day. Let’s start tomorrow — not with an empty stomach, but with a little fuel and a lot of energy.

[注] health committee 保健委員会 / result 結果 / rarely めったに～ない / concentrate 集中する / skip ～を抜く / empty stomach 空腹 / fuel 燃料

グラフ・資料統合 No.1(朝ごはんアンケート) L1 標準

設問 本文の内容について、最も適切なものをア～エから1つずつ選ぼう。

問1(15点) 本文の(①)に入る最も適切なものはどれか。 ア homework イ fuel ウ a test エ a friend	()
問2(15点) [表]の(X)に入る数として正しいものはどれか。 ア 7 イ 8 ウ 9 エ 10	()
問3(15点) 次の英文を本文中の(A)～(D)のどこかに入れるとき、最も適切な場所はどれか。 Thirty minutes is enough time for a small breakfast.(30分あれば、かんたんな朝ごはんには十分だ。) ア (A) イ (B) ウ (C) エ (D)	()
問4(15点) 下線部 this(第②段落)の内容として最も適切なものはどれか。 ア 朝の授業で眠くなること イ 夕食を食べすぎること ウ 朝ごはんのメニューを考えること エ 1時間目のテストで良い点を取ること	()
問5(20点) 本文と[表]の内容と合っているものはどれか。 ア 毎日朝ごはんを食べる生徒は、クラスの半分より少ない。 イ 朝ごはんを「あまり食べない・食べない」と答えた生徒の多くは、朝に時間がないと言っている。 ウ 保健委員会は、朝ごはんの材料を毎朝教室で配る予定だ。 エ リクは、朝ごはんは量が多いほどよいと考えている。	()
問6(20点) このスピーチの主題として最も適切なものはどれか。 ア 夜ふかしの楽しさ イ アンケートの正しい作り方 ウ 朝ごはんから1日を始めよう エ バナナの育て方	()

とき終わったら かかった時間(分 秒)→ 次のページの解説で自己採点 → 得点(/100点) まちがえた問題こそ宝。解説の「誤答の切り方」まで読むと、次の1枚で点が変わる。

解答一覧(まず自己採点)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	得点
イ	ウ	ウ	ア	イ	ウ	/ 100

問1 正解 **イ**(15点) | 比喩の空所は「何の話をしている段落か」で決める

根拠 第②段落は「脳はエネルギーをたくさん使う→朝には夕食のエネルギーがほぼ切れている」という流れ。エネルギーを補給するもの＝fuel(燃料)。最終段落の a little fuel and a lot of energy でも同じ比喩がくり返されている。

誤答の切り方

ア	homework(宿題)——エネルギーの話とつながらない。
イ	fuel(燃料)＝「エネルギー切れの脳に朝ごはんを入れる」という段落の流れにぴったり。最終文とも呼応する。
ウ	a test(テスト)——テストの話はこの段落にない。
エ	a friend(友だち)——比喩としてありそうだが、直前の「エネルギー」の話を受けられない。

 **この形式のコツ** 比喩の空所は「その段落のキーワード」とつながる語を選ぶ。ここでは energy が2回出てくる——キーワードを受けられる選択肢は1つしかない。

問2 正解 **ウ**(15点) | 資料の(X)は「本文の数字」を全部拾ってから計算する

根拠 本文の数字は3つ——クラスは35人(第①段落)、毎日食べるは21人、「あまり食べない＋食べない」は合わせて5人(第②段落)。表より「あまり3人＋食べない2人＝5人」で本文と一致。よって(X)＝35－21－5＝9。

誤答の切り方

ア	7だと合計33人になり、クラスの35人と合わない。
イ	8だと合計34人。1人足りない。
ウ	9で合計がちょうど35人。本文の3つの数字すべてと一致する。
エ	10だと合計36人になり、多すぎる。

 **この形式のコツ** 資料の(X)問題は、①本文に出てくる数字に全部○をつける ②資料の数字と突き合わせる ③残りを引き算——の3ステップ。「合計」が本文にあるときは、最後に合計チェックで検算すると確実。

問3 正解 ウ(15点) | 挿入文の数字は「同じ数字のある場所」への案内

根拠 挿入文の Thirty minutes(30分)は、第④段落の「30分早く寝れば、30分早く起きられる」を受ける。(C)に置くと「早起きで生まれた30分→それで朝ごはんには十分」と一直線につながる。

誤答の切り方

ア	(A)第②段落はアンケート結果の話。30分はまだ出てこない。
イ	(B)第③段落は朝ごはんの大切さの話。時間の話は次の段落から。
ウ	(C)「30分早く起きられる」の直後——同じ数字がつながる唯一の場所。
エ	(D)第⑤段落はポスターと締めの話。30分の話は終わっている。

🔑 この形式のコツ 挿入文に数字があったら、本文の同じ数字を探す——数字は this や even より強い「置き場所の目印」。見つけたら前後1文だけ読んで流れを確認すれば決まる。

問4 正解 ア(15点) | 指示語は直前にもどって「代入」して確かめる

根拠 直前の文は「朝ごはんを抜くと、1時間目に眠く感じるが多い」。maybe you have felt this, too=「みんなも【朝の授業で眠くなること】を感じたことがあるかもしれない」——代入して意味が通る。

誤答の切り方

ア	直前の文の内容そのまま。代入チェックでも自然。
イ	食べすぎの話は本文のどこにもない。
ウ	メニューはポスター(第⑤段落)の話。段落がちがう。
エ	テストの点の話は本文にない。「集中できる」からの飛躍。

🔑 この形式のコツ 指示語は、①直前の文にもどる → ②候補を代入して読み直す → ③意味が通るか確かめる。スピーチ文の you に話しかける部分は、直前の「私の体験」を指すことが多い。

問5 正解 イ(20点) | 資料つき内容一致は「数字の選択肢」から先に切る

根拠 第②段落 almost all of the students who answered “rarely” or “never” said the same thing — “I have no time in the morning.” と一致。

誤答の切り方

ア	21人は35人の半分(17.5人)より多い。「半分より少ない」は計算で切れる。
イ	第②段落の内容と一致する。
ウ	配るのは「材料」ではなく「ポスター」(第⑤段落)。すり替え。
エ	第④段落に「朝ごはんは大きくなってよい(バナナと牛乳でも)」とあり、真逆。

🔑 この形式のコツ 資料つきの内容一致は、数字で判定できる選択肢(半分より多い/少ない など)から先に計算で切ると速い。言葉の選択肢はそのあと本文と1対1で照合する。

問6 正解 ウ(20点) | スピーチの主題は「最後の呼びかけ」に集まる

根拠 最終段落 Let’s start tomorrow — not with an empty stomach, but with a little fuel(明日から、空腹ではなく燃料と一緒に始めよう)が直接の根拠。①調査→②結果→③大切さ→④工夫→⑤呼びかけ、の全部をおおう。

誤答の切り方

ア	夜ふかしはむしろ「変えるべきもの」として出てくる。
イ	アンケートは話の入り口。作り方の説明はない。
ウ	最後の呼びかけそのまま+全段落をおおう傘。
エ	バナナは「かんたんな朝ごはんの例」として一瞬出るだけ。

🔑 この形式のコツ スピーチ形式の主題は、最終段落の Let’s ~ / Why don’t we ~(呼びかけ)が答えの置き場所。説明文の「筆者の主張」と同じで、締めの一文から傘を広げて確かめる。

本文の設計図(段落メモ)——復習は「1段落1行」でまとめ直すのが最短

①	問いかけ＝朝ごはん、毎日食べている？(クラス35人に調査)
②	結果＝毎日21人・食べない側5人。「時間がない」が共通の理由
③	大切さ＝朝ごはんは脳の燃料(集中力の研究・眠くなる体験)
④	工夫＝変えるのは夜(30分早く寝る)＋量は少なくてよい
⑤	行動＝ポスターを作る。「明日から燃料と一緒に始めよう」

もう一段のぼる 資料問題の心臓部は問2の型——「本文の数字を全部拾う→資料と突き合わせる→引き算→合計で検算」。No.2(図書室のグラフ)では、数字の関係が「2倍」という言葉で出てくる。同じ手順で解けるか試そう。

先生向け・運用ノート チャレンジ棚・保健や学活との教科横断にも(本文約300語＋表。計30分)。スピーチ原稿形式なので、音読教材としても使える。配点は問1～4各15点・問5～6各20点。